

人文・社会系研究者からみたデジタル化資料

平成25年度学術情報システム総合ワークショップ

2013年9月13日

一橋大学附属図書館 研究開発室 専門助手 杉岳志

前置き

- ▶ 私の役割
- ▶ 「人文・社会系研究者」
- ▶ 研修のテーマ

本日の内容

1. 自己紹介
2. これまでどう利用してきたか
3. 現在はどう利用しているか
4. 利活用の向上に向けて

1. 自己紹介

自己紹介① 図書館員として

- ▶ 一橋大学附属図書館に勤務
 - ▶ 2007年4月着任（現在7年目）
 - ▶ 研究開発室 専門助手
- ▶ 主な職務
 - ▶ 歴史資料の整理・デジタル化・研究
 - ▶ 展示の企画
 - ▶ レポート・論文の書き方の指導
 - ▶ 専門的レファレンス

自己紹介① 図書館員として（続き）

▶ デジタル化の成果

▶ 近代日本経済史・経営史デジタルアーカイブ

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/about/da/ebhj>

▶ 研究者手稿類デジタルアーカイブ

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/about/da/manuscripts>

自己紹介② 研究者として

- ▶ 日本近世史・文化史の研究者
 - ▶ 博士論文『近世日本における天変の文化史』
 - ▶ 研究に用いる主な資料
 - ▶ 日記（古記録）
 - ▶ 書物（古典籍）
- ▶ 東京高等商業学校についても研究

2. これまでどう利用してきたか

学部生時代（1995～2002）

- ▶ 初めてデジタル化資料を利用（2001～2002）
 - ▶ 東京大学史料編纂所所蔵肖像画模本データベース
- ▶ 利用の背景
 - ▶ 卒業論文のテーマ
 - ▶ 出会い
 - ▶ 2001年「ブロードバンド元年」

修士課程～就職（2002～2007）

- ▶ デジタル化資料はさほど利用せず
 - ▶ 利用したい資料がデジタル化されていない
 - ▶ 自らの無知
 - ▶ 使い勝手がよくない

就職以後（2007～）

- ▶ （たぶん）初めて論文をPDFで読む
 - ▶ CiNii PDF
 - ▶ 機関リポジトリ
- ▶ 資料所蔵機関のデジタル化資料を利用
 - ▶ 早稲田大学古典籍総合データベース
 - ▶ 国立公文書館デジタルアーカイブ など

3. 現在はどのように利用しているか

現在の資料利用パターン①

▶ 論文

1. CiNii Articles
2. HERMES-Link (リンクリゾルバ)
3. グーグル
4. 勤務先の所蔵資料 (現物)
5. ILL (文献複写)

▶ 図書

1. 勤務先の所蔵資料 (現物)
2. 近代デジタルライブラリー／グーグル
3. ILL (現物貸借) ／訪問利用

現在の資料利用パターン②

▶ 古典籍

1. 早稲田大学古典籍総合データベース
2. 国立国会図書館サーチ
3. グーグル
4. 資料所蔵機関訪問

▶ 歴史資料

1. 当該資料を所蔵する機関のウェブサイト
2. グーグル
3. 資料所蔵機関訪問

4. 利活用の向上に向けて

利活用向上のポイント

- ▶ 資料の稀少性
- ▶ 利用者の幅
- ▶ 資料へのアクセス
- ▶ インフラの使い勝手

研究者の視点からの要望

- ▶ そこにしかない資料を
 - ▶ 稀少性 > 利用数
- ▶ 見つけやすく
 - ▶ 普段使う検索ツールからリンクしてほしい
 - ▶ 図書：OPAC・CiNii Books
 - ▶ 古典籍：日本古典籍総合目録データベース
- ▶ 使いやすく
 - ▶ 動作が軽い・見やすい

図書館員の視点からの提案

▶ 利活用する機会を自ら作る

- ▶ 平成24年度一橋大学附属図書館企画展示
「旅する高商生たち」

- ▶ 福田徳三研究会 <http://fukuda.lib.hit-u.ac.jp/>

高橋菜奈子「機関リポジトリとデジタル・アーカイブの架け橋：一橋大学の福田徳三関連事業の挑戦」『大学図書館研究』85、2009年参照。